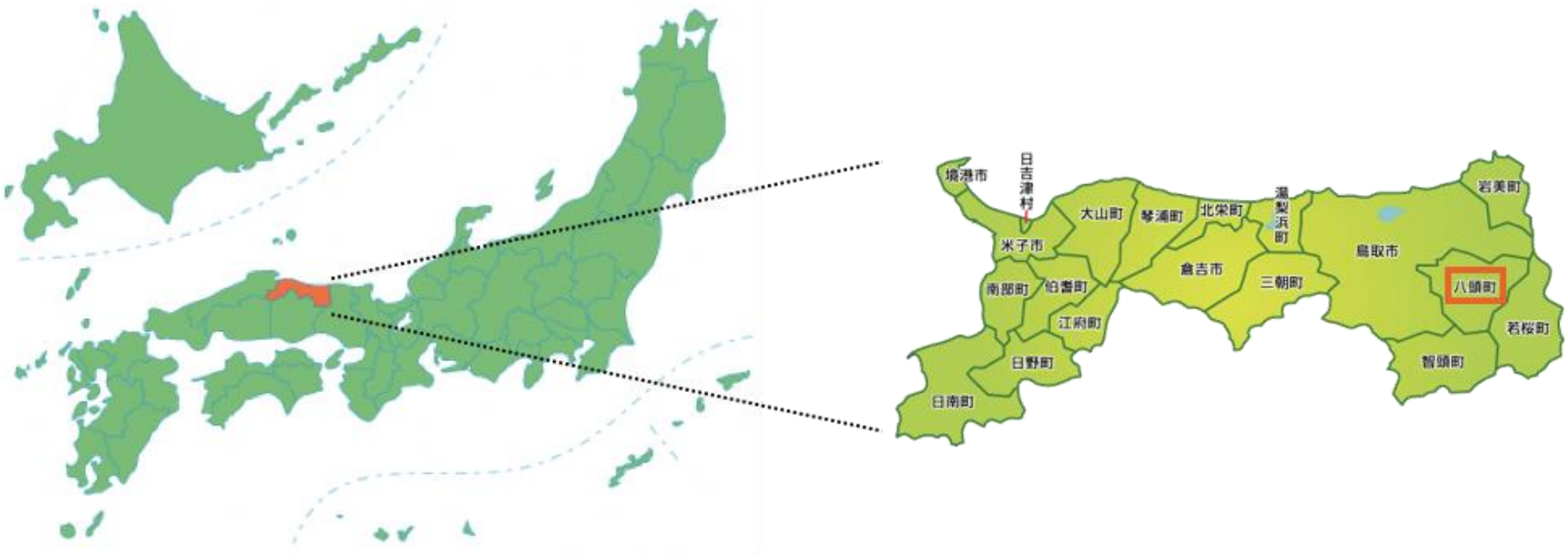
2024.09.12
官民連携講座

持続可能な未来の田舎を作る新たな地域拠点

鳥取県八頭町

鳥取県八頭町（やず）

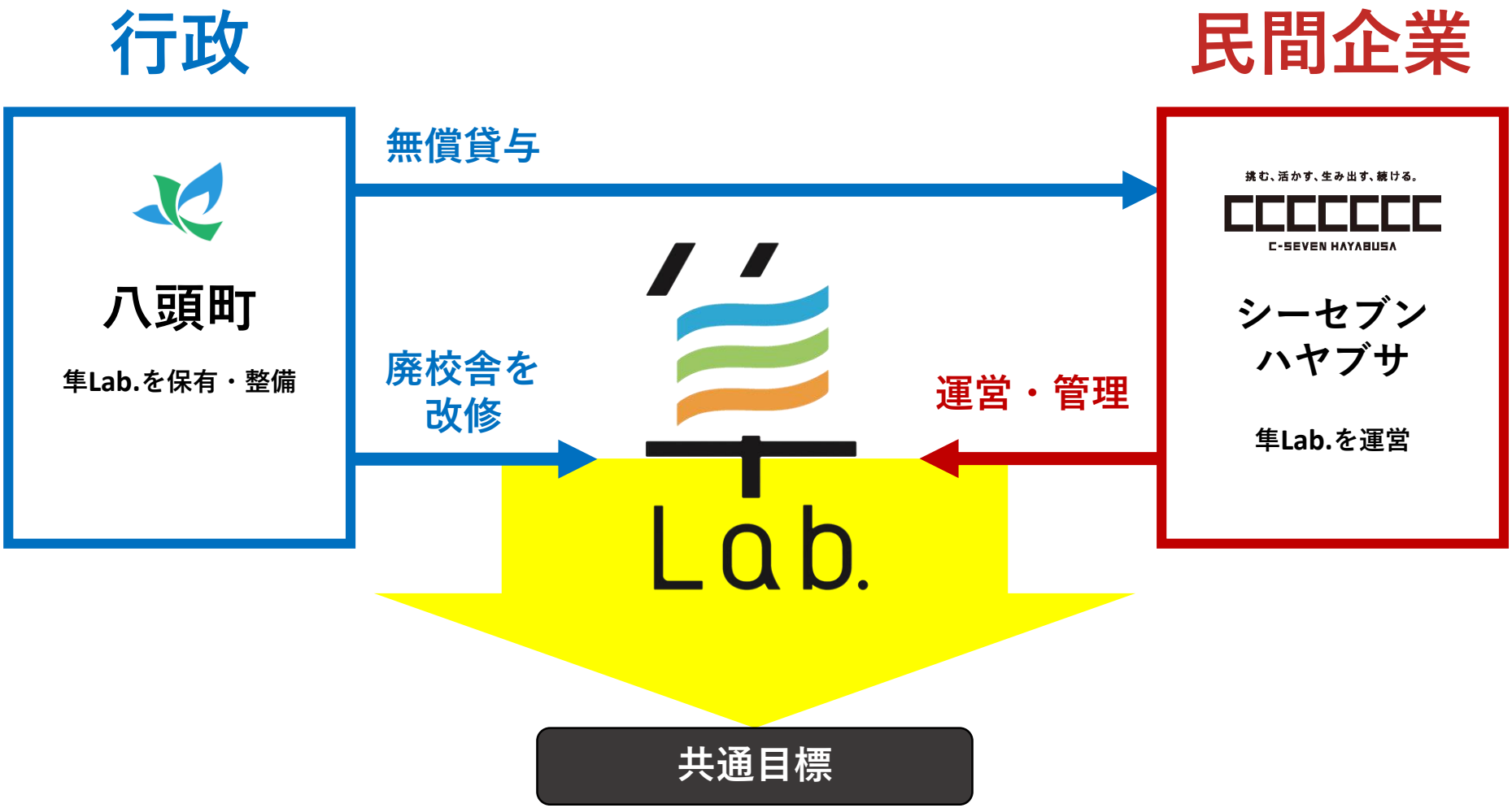


人口	15,601 人	世帯数	6,082 世帯
高齢化率	36 %	面積	206.71 km2

※人口・世帯数は2024年8月末現在
※高齢化率は人口における65歳以上の割合、2021年統計調査による

- 県庁所在地の鳥取市に隣接し、同市のベッドタウンとして発展
- 国定公園の扇ノ山など1,000mを超える山々に囲まれ、柿や梨の栽培が盛んなフルーツの里

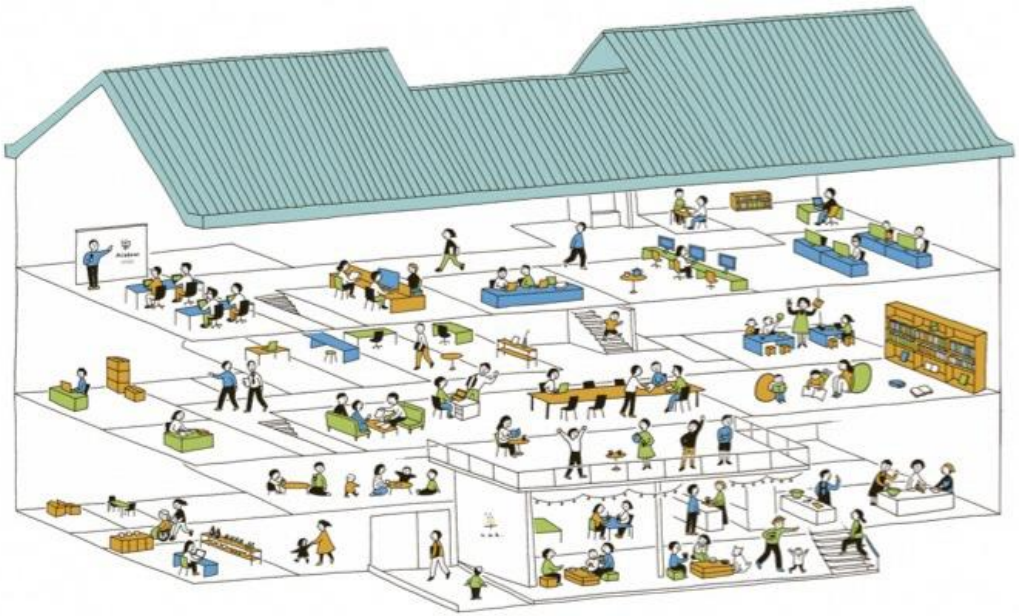
Lab



**隼Lab.を拠点に、持続可能な未来の
モデルとなる田舎をつくる**

起業家、ビジネスパーソン、地域住民、子育て世代、高齢者… 多種多様なコミュニティが共存

「コミュニティ複合施設」



シェアオフィス

コワーキングスペース

カフェ
ショップ

地域の活動拠点
訪問看護ステーション

隼Lab.整備に至る課題意識

合併前

小学校：８校

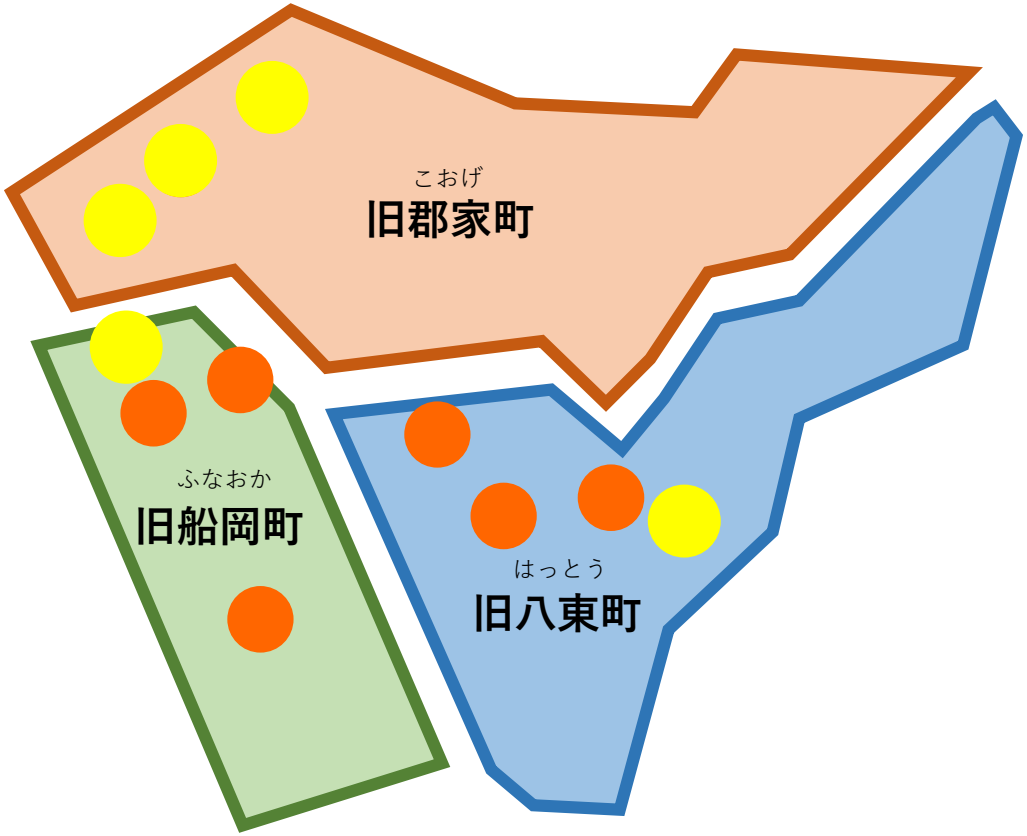
中学校：３校

平成17年に３町が合併

合併後

小学校：４校（△４）

中学校：１校（△２）



地域コミュニティの衰退

- 地域の“思い”が詰まった施設がなくなることでコミュニティが希薄化
- 福祉、教育、雇用機会など、あらゆる面で人々の生活の循環が阻害され、地域全体の衰退や人口減少、若者の都市集中が加速してしまう・・・あらゆる地域課題の根幹

行政の背景

第1期総合戦略の策定（2015年9月）

産官学金労言に子育て団体、元地域おこし協力隊の移住者等が参画する策定委員会、公募町民の検討委員会、若手職員PT、高校生との意見交換会など、幅広い検討体制で議論

重点取組事項「八頭イノベーションバレーの創設」

IT関係などインターネット環境を活用し、場所にとらわれることなく就業可能な業務が増加していることを踏まえ、**学校の跡地など空き施設を活用し、企業等の本拠から離れた場所に設置するオフィス（サテライトオフィス）の開設など情報関係企業等の誘致を行い、新たな雇用の場を創出**し、革新的な起業家（イノベーター）が活躍・発信するまちの創設を目指す

KPI	誘致企業数 5 社（1 社 / 年）

地方創生人材支援制度（内閣府）の活用

- 国家公務員等の総合的又は専門的な知見を有する人材を地方公共団体に派遣する制度
- **厚生労働省の職員を地方創生監（常勤）として3年間受け入れ。**ノウハウと外部視点を生かして戦略の策定から取組の推進までをサポート

地域（八頭町隼地区）の背景

スズキのバイク「Hayabusa」の聖地

- 地名にちなみ、スズキ「Hayabusa」の愛好ライダーたちに聖地として親しまれる
- 毎年開催される「隼駅まつり」には、1日で全国から2,500台のバイクが集結

若者の挑戦を地域住民が支える土壌

- 人々が集まる場所をつくり、より地域の魅力を知ってもらいたいという住民の思い
- Uターンした地元の若者たちの行動へ
  ⇒2014年に飲食店、2016年に古民家をリノベーションしたゲストハウスがオープン

隼小学校（現 隼Lab.）の閉校

- 地区唯一の小学校の閉校
- 思い出のつまった小学校を閉校後も活用したいという強い要望

計画・準備段階からの民間の参画

「つくる」人と「つかう」人を分離させない

	プロジェクトの主体者	プロジェクトの動き
2014年		関係者 協議開始
2015年	八頭町 SBヒューマンキャピタル（株） ※企画立案及び推進業務を委託	事業プランを策定 ・先行的な企業誘致 ・住民参加のプロジェクト会議
2016年	**まちづくり事業会社設立準備委員会** ※複数の民間企業、鳥取銀行も参画	事業プランの具体化 運営会社の設立検討
2017年	（株）シーセブンハヤブサ	3月 隼小学校閉校 （リノベーション工事） 12月 隼Lab.オープン

3年

9か月

検討初期から地域住民も主体的に参加

プロジェクト会議には地域住民の代表者も参加し、「新たな地域の拠点」として住民が日常的に利用する前提で、意見集約。

- 地域の福祉活動団体の入居・利用
- 運動会など地域行事にも活用
- 訪問看護ステーションの入居 etc…

計画・準備段階からの民間の参画

民間企業と一緒にプロジェクトを進めたことによるメリット

ソフト

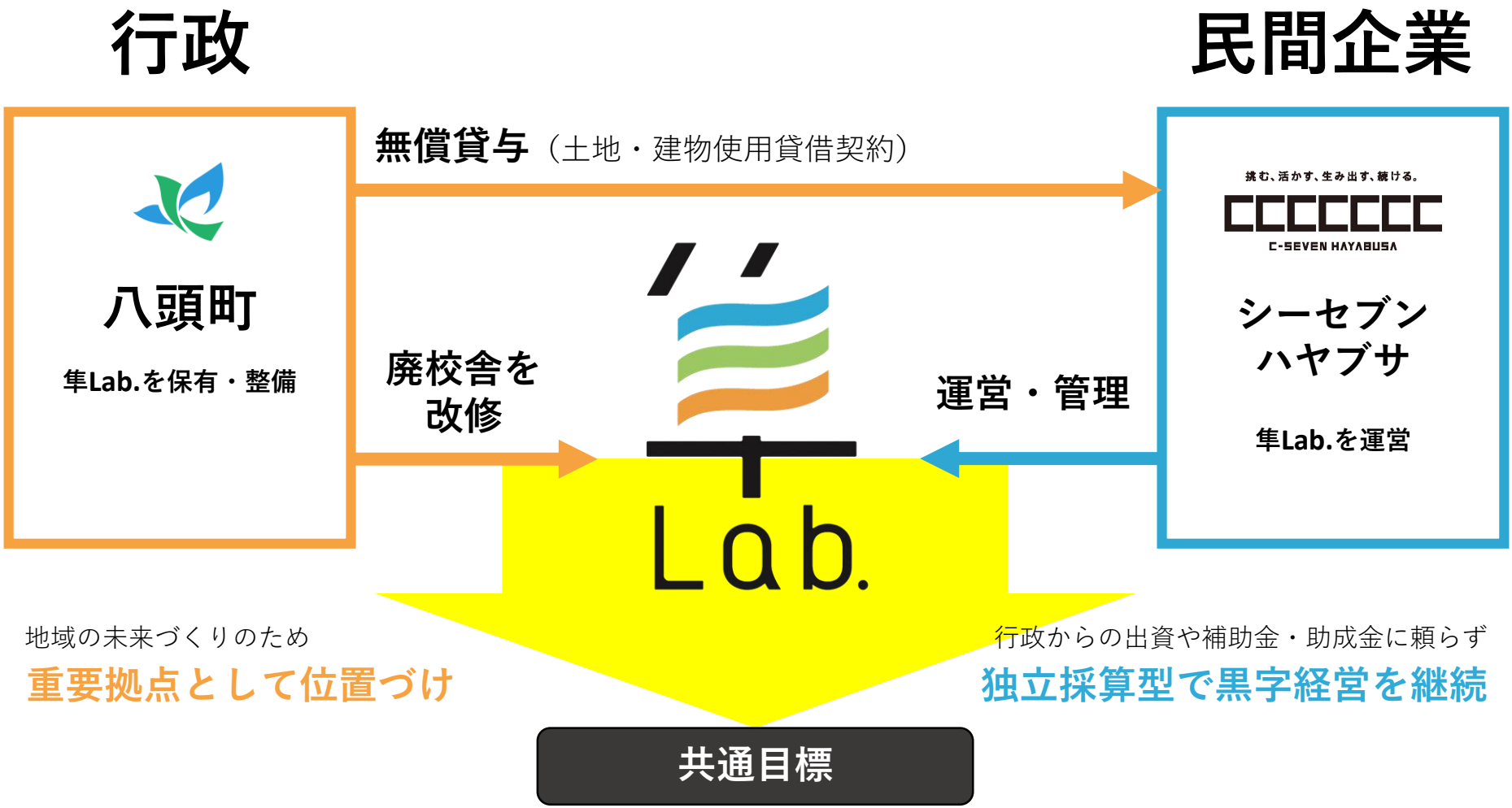
- 民間企業のネットワークを最大限活用し企業を誘致
  オープンまでにオフィスの約8割の入居が決まる
  → **オープンから3年以内に満室状態**を達成
- 隼Lab.のコンセプトに共感した熱意と発信力のあるプレイヤーを巻き込み、認知度を向上

ハード

- オフィスとして実際の使い方・管理の仕方、持たせたい機能を踏まえ、**運用に直結する施設**に
- デザイン性も兼ね備えた、**魅力ある施設**に

隼Lab.整備費用

内容	費用	主な財源
設計監理	13,965 千円	■地方創生拠点整備交付金 補助率：1/2 補正予算債充当
本体工事（2,3 階等）	100,440 千円	
備品購入	30,770 千円	
拡充工事 （1 階増築部分等）	37,460 千円	■地方創生拠点整備交付金 補助率：1/2 一般補助施設整備等事業債充当



**隼Lab.を拠点に、持続可能な未来の
モデルとなる田舎をつくる**

隼Lab.運営体制

挑む、活かす、生み出す、続ける。
C-SEVEN HAYABUSA

■（株）シーセブンハヤブサ

- 隼Lab.のオープン（2017年12月）に先立ち、2017年4月に会社設立
- 計画段階から参画した7社の民間企業が出資 / 町からの出資なし / 指定管理や運営委託も行わない

代表取締役CEO

TORIKUMI

(株)トリクミ
鳥取県内にて飲食店を運営、デザイン・ブランディング業務も行う。隼Lab.内のカフェも運営。代表取締役CEO・古田琢也（八頭町出身）がシーセブンハヤブサの代表も務める。

取締役

AXiS
CHANGE THE FUTURE WITH PASSION

(株)アクシス
鳥取県内大手のIT企業。隼Lab.内にも入居し、地方のIT企業として様々な取り組みを行う。代表取締役・坂本哲（鳥取県出身）がシーセブンハヤブサの取締役を務める。

KANAMEL

KANAMEL (株)
広告コンテンツの戦略立案・企画・制作を行う傘下子会社及びグループの経営管理。代表取締役グループCEO・中江康人（鳥取県出身）が積極的に関与。

監査役
＋行員1名を出向

鳥取銀行

(株)鳥取銀行
地域金融機関の立場から、隼Lab.の運営や、隼Lab.を拠点とした起業創業のエコシステムの構築に取り組む。担当行員1名がシーセブンハヤブサに出向。

隼Lab.運営体制

■ 隼地区及び隼Lab.連携運営協議会

- （株）シーセブンハヤブサ（運営主体）、隼創生会（地域）及び行政で構成
- 隼Lab. コミュニティゾーン（地域利用スペース）の円滑な運営を実現
- 地域と連携した事業展開を実施

◯ 隼創生会

- 地域一体となって隼Lab.の運営に取り組むため、住民によってつくられた組織
- 隼地区の9集落全てが加入　⇒　**住民の合意形成プロセスが1本化**
- 住民と民間企業が連携し、敷地内の草刈りや清掃などの環境整備活動に取り組む

隼Lab.運営体制 ～それぞれが役割を担い責任を全うする関係性づくり～

行政

決断し進める 責任

- 2015年に「八頭町総合戦略」を策定し取組を具体化
- 運営を民間主導で進めることを決断し、議会承認を含む手続きを迅速に行う

地域住民

参加する 責任

- 住民が使用する前提で協議に主体的に参加
- 民間主導のスピードに歩調を合わせるため、集落の枠を超えて地域全体が所属する組織を創設し、スムーズな意見集約・合意形成を実現

民間企業

稼ぐ 責任

- 行政からの出資や補助金・助成金に頼らず、独立採算型で持続可能な運営を実現するため、ビジョンを共有する複数企業が出資し、運営会社を設立
- 検討段階から参画し、実際の運営までを担う

LINE Pay
Pay Pay
使えます!

8823 NEW PICNIC

隼Lab.運営の状況

シェアオフィス入居・コワーキングスペース会員含めて

約40企業が入居

- シェアオフィスは満室状態が続き、2021年4月にはPARK OFFICE 3棟を増築
- 官民連携の地域づくり、起業やチャレンジが生まれているという認知が広がり、隼Lab.の価値が向上したことで、**コンセプトや取組に共感する企業から入居・入会**の相談が来る好循環

隼Lab.運営の状況

就業者数

50人/日

来場者数

6.6万人/年

- ビジネスの拠点かつ、地域住民の交流拠点として運営
- 隼Lab.のコンセプト「**多様な生き方がゆるやかに重なり合い、一人一人の暮らしを豊かにする場**」に基づき、独自のイベントを開催
- 県内外から様々な出店が並ぶ「はやぶさにちようマーケット」、大人が楽しめる講座「隼Life School」など

隼Lab.運営の状況

起業・創業数

16件

■ 経営スクールを開催

- 半年間の経営スクール「隼Academy」、「TORIGGER」
- 講師は全国の一線で活躍する経営者
- 対象：次のステップへの成長を目指す起業家、二代目三代目の経営者等
- 地域金融機関、行政（県、町）、関連企業とも連携

■ 地域ビジネスのエコシステム構築を目指す

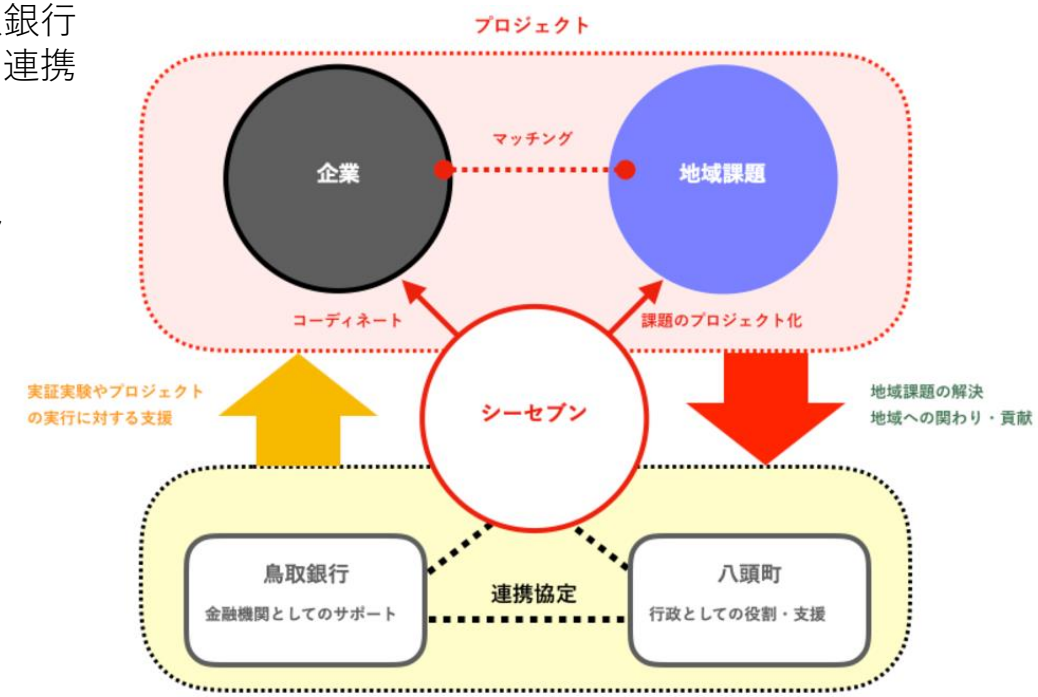
- コワーキングスペースには、鳥取銀行から出向した行員が常駐し多角的にサポート
- 入居企業が地域の事業者と連携する事例も生まれつつある
  （例：ドローン事業に取り組む入居企業と、町内の農業法人が連携し、スマート農業に取り組む）
- 事業者の集積、**起業創業や事業成長が生まれるエコシステム**の構築、**事業者同士のコミュニティの拡大**を目指す

隼Lab.これからの取り組み

八頭未来の田舎プロジェクト

- 隼Lab.を核とした企業等との連携により、地域課題の解決に向けた取り組みを創出・推進するプラットホームを構築
- 地域が抱える課題をプロジェクトとして提示し、その解決に参加したい企業を募る
  随時実証実験等を進め、課題解決を目指す
- 八頭町、シーセブンハヤブサ、鳥取銀行の三者でプロジェクト推進に向けた連携協定を締結
- 地域の拠点から
  地域外の企業も巻き込み課題解決へ

連携協定調印式（2021.10.25）



プロジェクト推進体制

八頭 未来の田舎 PROJECT

様々なアイデアや技術を持つ企業と

コミュニティを掛け合わせ、

テクノロジー×コミュニティの力で

地域の課題を解決するプロジェクト。

八頭町・シーセブンハヤブサ・
鳥取銀行が連携して推進する。

さあ、未来の田舎をつくろう。